

2020年4月2日

「春の踏切事故防止キャンペーン」を実施します！

JR北海道では、令和2年春の全国交通安全運動の実施にあわせ、北海道運輸局、北海道、北海道警察、交通関係協力団体のご協力をいただき、踏切事故の防止を図るため4月6日から「春の踏切事故防止キャンペーン」を実施します。

キャンペーン期間中は、全道各地で、「踏切手前での確実な一旦停止と安全確認」や「万が一、踏切内に閉じこめられたら、そのまま車を進めて、まず脱出」、「車が動かなくなった時には非常ボタンや車の発炎筒等で列車を止める」などの呼びかけを行います。



デジタルサイネージによる呼びかけ（札幌駅の例）

■実施期間

2020年4月6日(月)から4月15日(水)までの10日間

■実施内容

- 特急列車の客室内情報表示装置での呼びかけ
- 道内のガソリンスタンド（48箇所）及び駅レンタカー営業所（21箇所）をご利用になるドライバーへの呼びかけ
- 小中学校・幼稚園等を訪問しポスター・リーフレット等の配布による呼びかけ
- 関係機関、団体、自動車学校、企業等を訪問しての呼びかけ
- ラジオCMの放送
- 札幌駅、函館駅でのデジタルサイネージによる踏切事故防止の呼びかけ

※新型コロナウィルス感染拡大防止のため、不特定多数の方と接触する駅構内・踏切等での啓発活動は中止します。

<踏切事故の概況>

2019年度、JR北海道での踏切事故は3件発生し、前年度と比較すると同じ件数となっています。冬期間では、2件の踏切事故が発生しており、吹雪による視界不良で、車が踏切内で脱輪し動けなくなったり、警報機が鳴っている状態で、車が踏切手前で止まりきれず、踏切に進入し、列車と衝突しています。また、無理な通行などでしゃ断ポールが折損した件数は、年間で234件発生しています。